

2019年8月28日

(公社) 日本トライアスロン連合
事務局 御中

JTU 高校生普及委員会
委員長 園川 峰紀

第2回全国高等学校トライアスロン選手権大会出張全体報告

1. 派遣先

第2回全国高等学校トライアスロン選手権大会

※京都府南丹市八木町 大堰川緑地公園及び周辺地域

2. 派遣目的

大会視察業務及びT0サポート業務

3. 派遣委員

園川 峰紀 (普及委員会委員長) ※トランジション及びアスリートラウンジ管理業務

豊岡 正康 (普及委員会委員) ※同上

内藤 義之 (同上) ※高校生選手権審判長業務兼任

稲子 修 (同アドバイザー) ※トランジション及び乗降車ライン管理業務

4. 派遣期間

2019年8月24日～25日

※宿泊先 ビジネスホテル・ポニー 京都府亀岡市在

5. 活動内容

8月24日(土) 12:00頃～18:00頃

1) 会場レイアウトチェック及びコースチェック

※スイム会場・トランジショエリア・フィニッシュエリア・バイク及びランコース等事前チェック

2) 競技説明会立ち会い

※選手権大会担当TDからアスリートガイドに沿った説明会を約30分にわたり実施した。その後、スタート方式についてあるコーチから「アヤフヤな基準より、違反が起こらない公正なスタート方式を示して欲しい」旨の申し出があり、技術代表・審判長と協議の上、ローリングスタート方式に近い方式を採用することとした。なお、当該スタート方式は競技当日のスタート前にアスリートラウンジで周知徹底を図り、男女ともスムーズなスタートを行えた。

3) メディカル委員会報告聴講

※聴講内容は別紙1 保護者セミナー参照

4) 保護者セミナー立ち会い

※概要は別紙1 保護者セミナー参照

5) アンケート実施 (選手・保護者・コーチなど)

※昨年第1回大会と同じ内容で選手全員に対しアンケート用紙を配布し、説明会終了後に0回収。集計結果は別紙3参照

8月25日(日)06:45頃~13:30頃

5) 大会サポート業務：大会全般については別紙2 HR報告書参照

※トランジション(TA)業務

：選手権実施時の際の選手導線確保、TAエリア管理及びペナルティー管理等

- ・選手からTAエリア内におけるスイム~バイク~ランの導線にかかる質問を受け、その都度具体的な説明を行った。
- ・複数名の選手がTA内に設置された「Equipment」用のボックスを当初の位置から移動させていた事例が散見されたが、この種の機材に関する移動は審判長・技術代表に事前相談して行うことが望ましい。
- ・男子競技の際、Equipment違反1件、Helmet Strap違反2件を確認。審判長に報告の上、ペナルティーボックス(PB)担当者に連絡。その後Strap違反選手1名がPBに立ち寄りなかった為、当該選手をDQ扱いとした。

※乗降車ライン管理業務：選手権実施時の際の乗降車管理

- ・男子競技の際、乗車ライン違反を2件確認。それぞれ審判長に報告の上、ペナルティーボックス担当者に報告。いずれも速やかに実施された。
- ・男女とも降車時には違反は皆無であった。

※最終登録立ち会い

- ・男子選手1名のアンクルバンドが所在不明の為、DNS選手用のアンクルバンドを貸与して行った。アンクルバンド受領時に内容確認を行うことが望ましい。
- ・女子選手1名が最終登録時にショーアップしなかったが、トランジションにチェックインの際、当該選手を確認。当該選手の申し立てによると「当日の登録は不要と理解していた」が審判長と協議し、スイムアップ終了後のT1で10秒間のタイムペナルティーを課して競技を続行した。
- ・女子選手1名がトランジションクローズから30分遅れでチェックイン。審判長と協議し、スイムアップ終了後のT1で10秒間のタイムペナルティーを課して競技を続行した。

※アスリートラウンジ管理業務

- ・選手のプライバシー保護及び体調管理等に努めいずれもトラブルの発生はなかった。

※表彰式プレゼンター

- ・南丹市関係者5名及び普及委員会メンバー3名(園川/豊島/内藤)により、入賞者1位~8位までの選手への表彰盾及び副賞のプレゼンターを務めた。

6) 大会視察所見

- ・昨年の第1回大会は、水嵩、水流ともスイム競技実施には不適切な為、デュアスロン競技に変更して実施となったが、今回は前日の降雨で多少透明度が低いものの水流は緩やか、かつ水深も十分確保され競技実施に支障なしとの判断で、大会当日早朝の実施検討会議では3種目とも実施することが決定。名実共に高校生チャンピオンを決めるための相応しい大会となった。
- ・レース前日に行われたユニフォームチェック・車検に引き続く競技説明会は担当T0初め関係者の連携もスムーズに運び、ほぼスケジュール通り行われた。参加した高校生アスリート達も本大会が高校生チャンピ

オンを決定する大会であるとの認識を持ち緊張感をもって臨んでいたものと感じた。

- ・レースに先立ち行われたスタートセレモニーでは T0 は先に所定の位置に配置され、審判団入場の際には TD/HR2 名のみがスタートエリアに向かう形となったが。ここは TD・スタートオフィシャル (T0)・HR の順番で入場する形をとりたい。
- ・スタート方式は、一部のコーチから「公正・安全を保証する方式を行って欲しい」旨の申し出を受け、スタート前に全選手に周知徹底を行いスムーズなスタートとなった。
- ・バイク競技において乗降車ライン違反、ストラップ規則違反、収納違反等が散見されたが、いずれも注意を払っていれば防げた違反行為であることから、今後上級大会への参加を控えている高校生アスリートへの注意喚起・教育的指導が必須であると感じた。
- ・本大会参加者募集は、昨年と比較すると早目の募集開始であったが、ほぼ同じ数の参加選手であった。できれば男子では 40 名程度、女子では 20 名程度の選手の参加を確保したい。

7) 今後の高校生選手権大会の方向性について (岸田理事提案)

※地方における高校生トライアスロンの普及と強化をめざして当該年度のインターハイ開催地ブロック内の加盟団体がこれを開催するよう検討を始める。

本提案について、現地にて岸田理事から説明を受け派遣委員を交えショートブリーフィングを実施した。インターハイ実施時に合わせて各ブロック持ち回りで開催することによりブロック内での機運も高まり高校生アスリートの発掘・育成にもつながると考えられる。

なお、南丹市で全国大会を継続開催することが地元の強い要望でもあることから当該案を実施するに際しては入念な検討が必須である。又、各ブロックでの大会開催体力に温度差がある為、このギャップを埋めるにはある程度の時間がかかることが懸念される。普及委員会としても本提案を真摯に受け止め、検討していく用意がある。

8) 大会スナップ集

※最終受付 アスリートラウンジ前でアンクルバンド配布。自分の番号を確かめる選手達



※スタート方式説明に熱心に聞き入る選手達



※スタートセレモニー：岸田常務理事から激励メッセージ。見守る父兄の表情にも緊張感が！？



※ラインアップした選手達 その1



※ラインアップした選手達 その2 昨年とは違って変わって青空の下！



※横一線のきれいな男子スタート



※女子トップフィニッシュ R/N 102 平泉 真心選手



※入賞者に渡される 2019 年バージョン表彰盾



※入賞者全員でのスナップ 明日のトライアスロン界を担う若手アスリート達！



※出場者全員でスナップ

